



高山短大WRC参戦 現地レポート

高山短期大学は7年連続でWRC（世界ラリー選手権）オーストラリアラリーに参戦しています。

[チーム](#) 2002 チーム体制

[10/27](#) 学生メカニック本隊パース入り
サービスレッキ

[10/28](#) ワークショップでのラリーカー仕上げ作業
サービスレッキ

[10/29](#) ワークショップでのラリーカー仕上げ作業 & ターボシー
ル
サービスレッキ（レッキ最終日）

[10/30](#) 車検

[10/31 Part I](#) ラリー開幕

[10/31Part II](#) ラリースタート

[11/1](#) LEG1

[11/2](#) LEG2

[11/3 Part I](#) LEG3

[11/3Part II](#) LEG3（ゴール）

[▼2002 参戦情報へもどる](#)

presented by Takayama College

高山短期大学

info@takayamacollege.ac.jp

〒506-8577 岐阜県高山市下林町1155番地
tel 0577-32-4440 / fax 0577-32-4081



高山短大WRC参戦 チーム体制

2002高山短期大学のチーム概要

1号車 SUBARU IMPREZA (ゼッケン123)

LIEGH HYNES リー・ハインズ

GRAY MARSHALL グレー・マーシャル

2号車 SUBARU IMPREZA (ゼッケン127)

JIM MARDEN ジム・マーデン

STUART PERCIVAL スチュアート・パーシバル

メカニック 自動車工学科2年生19名

[▼もどる](#)

presented by Takayama College

高山短期大学

info@takayamacollege.ac.jp

〒506-8577 岐阜県高山市下林町1155番地
tel 0577-32-4440 / fax 0577-32-4081



高山短大WRC参戦 現地レポート

高山短大のWRC参戦の模様を現地パースからお伝えします。

最終更新: 22:30 10/27

10/27 学生メカニックパース入り～サービスレッキ

10/27

朝6時、無事パース国際空港に到着した学生たちは、休む間もなくサービスレッキへ。レッキとはドライバーが事前に実際のコースを走る試走のことで、そのレッキカーをサポートすることで学生たちの本番を想定した練習にします。



サービスレッキはパースから東、マンダリングを少し越えたあたりのchildlow。

今年もチームはA、Bの2チーム制。サポートするクルマは2台。



はじめて海外に出た学生が大半で、その興奮と飛行機の長旅の疲れもあって、サービス内容はイマイチ。



1号車ドライバーのLIEGH HYNES（リー・ハインズ）さん。地元西オーストラリアで活躍するプライベートドライバー。自身これがWRC初挑戦。



「いってらっしゃーい」今年もこのパフォーマンスは健在。



サービスレッキ後、すぐにパース市内のワークショップへ。やるべき作業はたくさんあります。



日本から送ったパーツ類の確認と仕訳。どこにどんなパーツがどれだけあるのか、何千というこれらのパーツの確認が大変です。



これからの最終仕上げを待つ2号車（手前、青）と1号車（白）。

WRC参戦初日は非常に長い一日となりました。朝6時空港着、ホテルチェックイン7時、8時ホテル出発～サービスレッキへ。

午後4時にワークショップへ。その後、夕食をとってホテルに戻ったのが午後9時。午後10時からミーティング。

ラリーは始まったばかり。これからが本番です。

presented by Takayama College

高山短期大学

info@takayamacollege.ac.jp

〒506-8577 岐阜県高山市下林町1155番地
tel 0577-32-4440 / fax 0577-32-4081



高山短大WRC参戦 現地レポート

高山短大のWRC参戦の模様を現地パースからお伝えします。

最終更新: 02:00 10/29

10/28 ワークショップでのラリーカー仕上げ作業 & サービスレッキ



先発隊5日目、学生本隊2日目、今日はワークショップで1日ラリーカーの総仕上げにかかります。
1号車（奥の白い車両）は未完成だったカラーリングとオフィシャルステッカーを貼る作業、そしてエンジン調整。
2号車（手前、青の車両）は未作業だったオフィシャル規定のGPSシステムの搭載作業。今年から競技中の転倒などの大事故の際、それを瞬時に感知してヘリコプターによる迅速な救急活動が行えるよう、GPSの搭載が義務づけられています。

ワークショップでの作業とは別に、学生4名はドライバーらエントラントのレッキサービスへ向かいます。早朝5時出発、雨に打たれ砂煙に巻かれ、走行距離400キロあまりと、ハードな1日にもかかわらず元気な学生たち。



1号車のエンジン調整は、すべてコンピューター管理。安全かつ最大出力の得られるポイントを探し、細かく設定していきます。



現地のサポートスタッフは、学生達の授業の環境づくりをしてくれる大切なチームメンバー。物資の手配、情報収集、学生たちとのコミュニケーションを通してチームに無くてはならない存在です。手前運転席のディーンさん、そして助手席にはエンジン調整中のダニーさん。



2号車は昨年走った車両が補強されてそのまま使用されています。



昼食風景。ハンバーガーとコーラをほおばって笑いが絶えない学生たち。



2号車、GPSの取り付け加工作業にはほぼ1日を費やしました。



リーさんはアジア系オーストラリア人でメカニック。学生の電気まわりの加工作業を手伝ってくれています。



この日、実は最も大変だったのはパーツ類の整理・仕訳と、パートトラックの準備かもしれません。ラリーカーに直接触れる内容ではないのでまさに縁の下の力持ち的仕事です。でもメカニックの作業効率、ラリー中の的確で迅速な仕事環境を作ってくれる大切な作業なのです。



この日、ラリーカーの総仕上げの下準備的仕事がメインとなった学生たち。明日10/29からは車両本体の作業が山のように予定されています。

[▼もどる](#)

presented by Takayama College

高山短期大学

info@takayamacollege.ac.jp

〒506-8577 岐阜県高山市下林町1155番地
tel 0577-32-4440 / fax 0577-32-4081



高山短大WRC参戦 現地レポート

高山短大のWRC参戦の模様を現地パースからお伝えします。

最終更新: 00:00 10/30

10/29 ワークショップでのラリーカー仕上げ作業 & サービスレッキ



パースはこの日、さわやかな快晴。



パートトラックも次第に整い始めました。



この日、ターボシールに備えてターボを取り外す学生たち。



GPSの取り付けも無事終了。



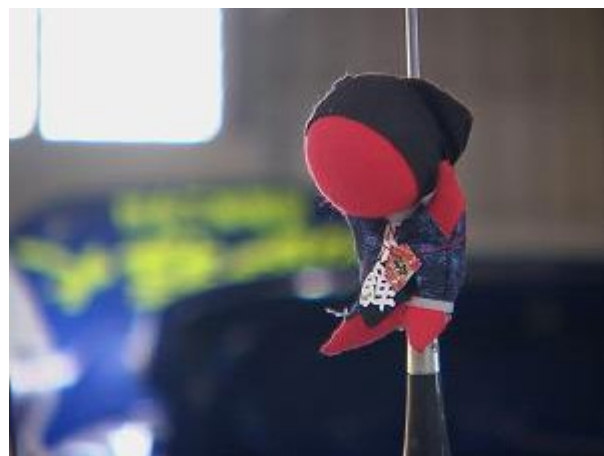
休憩時に現地スタッフのエドさんを囲んで英語レッスン。いつの間にかエドさんが日本語を覚えようと日本語レッスンに。



学生がシートの取り付け部分の溶接の不具合を発見。ただちに溶接の手配をし、処置にとりかかります。



学生が気づいたディスクローターのひび割れ。テスト段階で発生したと思われる、このまま見過ごしていたら本番で大事故を招いたかも。ただちに交換され、



飛騨高山の民芸品「さるぼぼ」。ラリーカーのお守りにアンテナに取り付けるのが高山短大の恒例です。今年もしっかり取り付けられました。

明日30日はいよいよラングレーパークで車検を受けます。（世界ラリーの競技規定に合致しているかどうかの検査）

[▼もどる](#)

presented by Takayama College

高山短期大学

info@takayamacollege.ac.jp

〒506-8577 岐阜県高山市下林町1155番地
tel 0577-32-4440 / fax 0577-32-4081



高山短大WRC参戦 現地レポート

高山短大のWRC参戦の模様を現地パースからお伝えします。

最終更新: 21:00 10/30

10/30

車検



いよいよ今日30日は車検。ここで性能、安全性ともにラリーの競技規定を満たすことができないクルマは出場ができなくなります。スタートランプへの最後の関門がこの車検です。
朝6時半、ワークショップで逸見監督から入念な一日の打ち合わせがあります。



昨日終えたターボシールのこれはスペア。ターボシールとはターボのリストリクター（エンジンへの吸気を制限する装置）の径に一定基準を設け、検査官の認定を受けた証明となるFIAの検査プレートを取り付ける検査作業のこと。



ワークショップで最終仕上げをした後、ラリー主会場であるラングレーパークへ。ラングレーパークはスワン川のほとりにある広大な芝生の公園で、パース市内中心部の摩天楼がすぐそこにあります。



車検に向かう1号車、2号車を学生全員が見守ります。



1号車、2号車ともにほぼ基準をクリア。ただし、安全性についてのいくつかの点で指摘を受け、再車検を受けることに。



車検の結果を心配そうに待っている学生たち。断片的に伝わってくる車検の状況に一喜一憂。



再車検はすぐに対応できる範囲の指摘ばかり。予定より2時間遅れで再車検は無事通過して、これでラリースタートの最後の関門はクリアです！！

明日31日、夢にまで見たWRC（世界ラリー選手権）オーストラリアラリーがパース市内ラングラーパークの特設コースで開幕します。SSS（スーパースペシャルステージ）のスタートはリバースオーダーで18:30すぎから。

高山短期大学は1号車 LIEGH HYNES（リー・ハインズ）、GRAY MARSHALL（グレー・マーシャル）、

2号車 JIM MARDEN（ジム・マーデン）、STUART PERCIVAL（スチュアート・パーシバル）の2台体制で出場します。ラリーは何が起こるかわからない。学生たちはどんなラリーを経験することになるのか、勉強してきたことをどれだけ発揮してどれだけ成長できるのか、明日からのラリーが楽しみです。

[▼もどる](#)

presented by Takayama College

高山短期大学

info@takayamacollege.ac.jp

〒506-8577 岐阜県高山市下林町1155番地
tel 0577-32-4440 / fax 0577-32-4081



高山短大WRC参戦 現地レポート

高山短大のWRC参戦の模様を現地パースからお伝えします。

最終更新: 22:00 10/31

10/31 ラリースタート！2002WRCオーストラリアラリー開幕

ついに2002WRC（世界ラリー選手権）オーストラリアラリー開幕の日となりました。自動車工学特論の「実践ラリー」「海外ラリー実習」としてここまで勉強してきたことが、いよいよホンモノのWRCで試されます。学生メカたち、今この瞬間をがんばれ。



高山短期大学1号車。白のボディー、ゼッケン123。



高山短期大学2号車。青のボディー、ゼッケン127。



1号車ドライバー、LIEGH HYNES（リー・ハインズ、右）、そしてコ・ドライバーのGRAY MARSHALL（グレイ・マーシャル、左）



2号車ドライバー JIM MARDEN（ジム・マーデン、左）、そしてコ・ドライバーのSTUART PERCIVAL（スチュアート・パーシバル、右）



本番を前にチーム全員が、ラングレーパークで恒例の記念撮影。



ラングレーパークの特設コースとギャラリースタンド。ラリーはここを主会場として、パース周辺の競技コースを走ります。



あとは18:30の開幕、そして19:00すぎの2号車、1号車スタートを待つだけ。

これがWRC、夢のスタートランプ。



ラングレーパークは2周で2.2kmのショートコース。2台同時スタートによるタイムトライアル、特設のギャラリースタンド、数々のセレモニーなど、世界ラリーにふさわしいエンターテインメントショーになっています。パークの一番右側部分が学生たちメカニックのいるサービスパーク。



サービステントでは学生たちの最後のミーティングが。



18:00頃、ラリースタートのために1号車を送り出す学生たち。そして2台のラリーカーはスタートランプへ。しかし・・・・・・

[▼もどる](#)

presented by Takayama College

高山短期大学

info@takayamacollege.ac.jp

〒506-8577 岐阜県高山市下林町1155番地
tel 0577-32-4440 / fax 0577-32-4081



高山短大WRC参戦 現地レポート

高山短大のWRC参戦の模様を現地パースからお伝えします。

最終更新: 00:00 11/1

10/31 part II ラリースタート！2002WRCオーストラリアラリー開幕II



サービスパークにはワークスのテントもあります。これは昨年のワールドチャンピオンでゼッケン1のグロンホルム（プジョー）



学生たちもワールドカーを見学。車両もちろん、メカニックの様子にも興味津々。



サービスパークの中ではワークスドライバーに最接



近できます。これはゼッケン9、三菱のデルクール。



女性メカニックの遠藤さんが見せてくれたのは、サービスインしてくるラリーカーを誘導するための学生の手作りパネル。2号車ジムさんに合わせて、オーストラリア版になっています。



スタート直前のひととき、学生の輪に入って談笑する2号車ドライバー、ジムさん。



パースの夕日は格別の美しさ。サービスパークからはスワン川に沈む夕日が見えます。それが合図かのように、ラリーは開幕します。



19:00少し前、ついにスタートランプに高山短期大学2号車が上がりました。
(このSSSはリバースオーダーのため、ゼッケンの後ろ順からスタートします)



コース内の特設スクリーンで見るラングレーパークを疾走する2号車。



サービスインするラリーカーを誘導する学生たち。



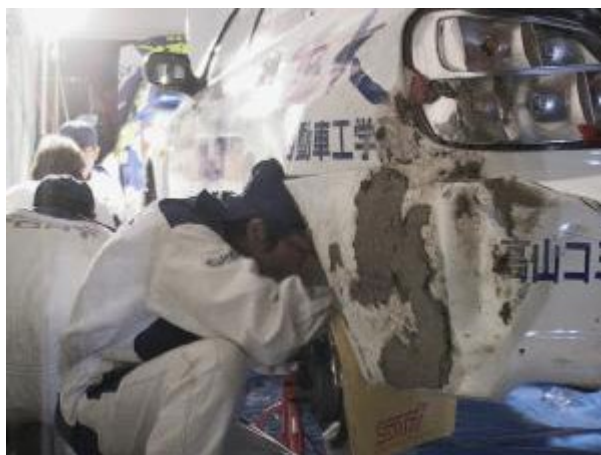
緊張と興奮、そして不安。サービスイン1分まえ。



来た！目視で見ると異状はなさそう。ドライバーのリクエストを聞いて、一気に作業が始まります。



ところが、1号車のサービスインで全員が色めき立ちます。左フロント、リアともにヒット。1号車のダメージは大きく、特に左フロントの足回りは全交換が必要かも。



1号車のリア側。学生が足回りのチェックを急いでいます。



心配そうな1号車ドライバー、リーさんと、コ・ドライバーのグレイさん。しかし20分サービスの制限時間の中では応急処置以外にどうしようもない。明日、全力をあげて左足回りにあたることに。



なんとか1号車を送りだしたものの、1号車ヒットにより、いきなり大きなトラブルを抱えてラリーが始まることになりました。

presented by Takayama College

高山短期大学

info@takayamacollege.ac.jp

〒506-8577 岐阜県高山市下林町1155番地
tel 0577-32-4440 / fax 0577-32-4081



高山短大WRC参戦 現地レポート

高山短大のWRC参戦の模様を現地パースからお伝えします。

最終更新: 00:30 11/2

11/1

LEG 1



昨夜のラリー開幕から明けてLEG1。この日はパースから南へのルートで競技が行われます。学生たちメカニック隊は、DWELLINGUPのサービスパークで計3回のサービスを行います。



スコールのような強い雨が降ったかと思うとすぐ晴れるくり返しで、この日は目まぐるしく天候が変化。気温も低く、学生は雨ガッパを着て震えながらの作業でした。連日30度を越える例年のパースの天候が嘘のよう。



何よりも心配なのは昨夜ラングレーパークでいきなりヒットした1号車の足回り。もしかしたら朝一番のこのサービスにたどり着く前に走行不能でリタイヤもありうるかも。そんな不安を抱きつつ、考えられる足回りの交換部品を準備する学生。



1号車はマシンの調子を見ながらの苦しい走りとなりました。

無事にサービスインした1号車。「ああ、良かった。たどり着いてくれた」誰もがそう思ったことでしょう。ここで状況を確認し、サービススケジュールを立て対処していけば、1号車はまだまだ行けます。



2度目のサービスでは1号車のリアストラット交換が用意され、事前にストラット調整の方法をチェック。



学生たちのサービスはすっかり有名になっています。サービス30分前だというのに、三菱、ブジョー、スコダ、スバル、らのワークスチームのメカニックが大挙して見学に来ます。



1号車はこれ以上のダメージを抑えつつ各SSを走り続けています。このサービスでは昨夜から曲がってしまっているリアのストラットを交換。2台体制で元気のいい学生たちのサービスは間違いなくワークスチームにつぐギャラリーの多さです。



このギャラリーの多さに「いったいここでは何が起こってるんだ？」とイギリスBBCのTVクルーが取



昨夜の1号車の交換部品を見てその衝撃の強さに驚く学生たち一同。ロアアームが折れてしまっていま

材を始める場面も。



す。



サービスパーク内はワークスチームのエリアもあります。学生達はちょっとした時間を見つけては駆けつけていました。



学生たちは1号車のリタイヤを一度は想定したこの日最初のサービスこそ戸惑っていましたが、次第に落ち着きを取り戻してきました。

順調に順位を上げている2号車もエンジンに問題を抱えています。この日、三菱のデルクールが大クラッシュを起こし、コ・ドライバーがケガをして運ばれるなど、相変わらずラリーは波乱含み。そのSS7はキャンセルとなりました。



LEG1、夜のサービスは45分。ここでしっかり直しておけば、LEG2は本来のポテンシャルを発揮できるにちがいありません。しかし、1号車はSS8で右フロントをヒット。バンパーの4分の1が吹っ飛んで落ちてしまったままサービスインしてきました。

一気に緊張の高まる学生たち。バンパーは取り外し、予備バンパーと交換です。これらの補修作業とダメージの症状判断で、予定されていたサービスメニューはすべて飛んでしまいました。マシンの不安を解消できないまま、LEG2へとマシンの調子を託すことになります。

[▼もどる](#)

presented by Takayama College

高山短期大学

info@takayamacollege.ac.jp

〒506-8577 岐阜県高山市下林町1155番地
tel 0577-32-4440 / fax 0577-32-4081



高山短大WRC参戦 現地レポート

高山短大のWRC参戦の模様を現地パースからお伝えします。

最終更新: 23:30 11/2

11/2

LEG 2

LEG2のこの日、高山短期大学1号車はSS12でリタイアとなりました。残った2号車を学生全員でサポートしゴールランプを目指します。



ラリー中盤のLEG2は、パースから東方面（マンドリング・ヨーク）がコースです。ブジョーのグロンホルムがトップ。バーンズ、マクレ、デルクール、ロイクス、ポッサムボーンら、主だった選手が次々とリタイアしていきました。

そして高山短期大学1号車は、SS12を走り終えたところでリタイアとなってしまいました。異常な燃料消費状態のため、サービスパークへたどり着くことなく燃料が底をついてしまったのです。



SS14、SS15のムレスク。連続ジャンプで有名な名物コースが久しぶりに復活しました。



ワークスや有名ドライバーの応援もさることながら、地元オーストラリア選手にたくさんの観客が声援を送っています。



ムレスクの連続ジャンプを走る2号車。



1号車を失った学生たちは直後は涙に沈んだものの、残った2号車を必ず完走させるため、すぐ気を取り直して競技に打ち込みます。Aチーム（1号車）、Bチーム（2号車）全員で円陣を組んで氣勢をあげる学生たち。



2号車もエンジン出力があがらないという問題を抱えながらの走り。1号車を失った今、2号車は絶対にゴールランプにたどり着かなければ。。。



リアのアンテナにくくりつけられた高山短大のお守り「さるぼぼ」。リタイアした1号車のさるぼぼは、完走への願いを2号車に託し、2号車に2つ並んでくくりつけられました。



LEG2の最後は夜のラングレーパークでのサービス。



下回りチェックなど通常サービスがメインのこのサービスでは、学生たち全員で2号車にあたります。全員で1台のクルマを完走まで導くんだ、、、全員の思いが一つになっていきます。



残った2号車はLEG2を総合35位（暫定）で終了。明日最終日の完走を目指します。

[▼もどる](#)

presented by Takayama College

高山短期大学

info@takayamacollege.ac.jp

〒506-8577 岐阜県高山市下林町1155番地
tel 0577-32-4440 / fax 0577-32-4081



高山短大WRC参戦 現地レポート

高山短大のWRC参戦の模様を現地パースからお伝えします。

最終更新: 21:00 11/4

11/3

LEG 3

ついに最終日となるLEG3を迎えました。今日を走りきればゴールランプが待っています。昨日、1号車を失った学生たちは、残る2号車に懸命のサービスを尽くします。



LEG3、パースから南東方面のSOTICOのサービスパーク。



3段ジャンプや川渡りなど、オーストラリアラリーのクライマックスがこのSSです。





残る2号車を絶対に完走させたい。学生たちは円陣を組んで氣勢をあげます。「実践ラリー」「海外ラリー実習」と、半年続けてきた勉強やトレーニングも、今日のこの日のサービスが最後。悔いの残らない全力のサービスをしよう。



2号車のエンジン出力のトラブルは解消できないまま。それでも順調に順位を上げていて、30位以内を狙えるポジションをキープしていました。



オーストラリアラリーですっかり有名になった、学生たちの「行ってらっしゃーい」の送りだし。ドライバーのジムさんも手を上げて応えます。まわりのギャラリーからも拍手があがります。



地元パース在住の現地ヘルパー、アランさん。ラリー参戦のためのさまざまなお手伝いをしてくれています。学生たちはこうした現地のみなさんに支えられているのです。



現地スタッフとの交流は世界ラリー参戦というビッグプロジェクトには必要不可欠です。学生たちの「授業環境」を整えるために食事や移動などの世話をしてくれるなど、なくてはならない人たちです。



サービスの合間にハンバーガーをほおぼる学生たち。



完走への願いをこめて1号車の分も一緒にくりつけられた「さるぼぼ」。

[▼もどる](#)

presented by Takayama College

高山短期大学

info@takayamacollege.ac.jp

〒506-8577 岐阜県高山市下林町1155番地
tel 0577-32-4440 / fax 0577-32-4081



高山短大WRC参戦 現地レポート

高山短大のWRC参戦の模様を現地パースからお伝えします。

最終更新: 21:00 11/4

11/3 LEG 3 (ゴール)

高山短期大学2号車 完走 29位。
学生たちのサポートした2号車はついに完走を果たし、ゴールランプへと上がりました。



LEG3、SOTICOのSS21を走る2号車。



名物の川渡りステージ。たくさんのギャラリーが押し寄せています。





2号車、
JIM MARDEN ジム・マーデン
STUART PERCIVAL スチュアート・パーシバル
「学生たちのためには途中でリタイヤはできない、
必ず完走します」、どんな難しいコンディションでもこの笑顔を絶やすことはありません。



最後のSS24を走り終えた2号車はゴールランプへ。
ゴールランプにはたくさんの観客が詰めかけていました。



2002WRCオーストラリアラリーはプジョーのマークス・グロンホルムが連続優勝を果たしました。ゴールランプは歓声で埋め尽くされます。



そしてついに！高山短期大学2号車がゴールランプにたどり着きました。総合29位完走。





ついに、夢は現実のものとなりました。ラリーは4日間の競技ですが、学生たちは約半年、授業とトレーニングを続けてきたのです。ゴールランプはその集大成です。学生たちおめでとう。

2002年 WRCオーストラリアラリー完走に向けた「実践ラリー」「海外ラリー実習」は、見事7年連続完走（総合29位）で幕を閉じました。応援下さった皆さまに心より感謝いたします。

[▼もどる](#)

presented by Takayama College

高山短期大学

info@takayamacollege.ac.jp

〒506-8577 岐阜県高山市下林町1155番地
tel 0577-32-4440 / fax 0577-32-4081